



# 洋上アルプス

No.324

2022年3月5日

発行  
林野庁屋久島森林生態系保全センター



バックナンバーや屋久島国有林における入林申請等は  
こちらにあります  
[http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima\\_hozen\\_c/](http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/)



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1

TEL0997-42-0331 FAX0997-42-0333



## 令和3年度 第2回屋久島世界遺産地域科学委員会・ヤクシカWG合同会議を開催

(1月31日～2月1日)

令和3年度の第2回「屋久島世界遺産地域科学委員会」と「ヤクシカ・ワーキンググループ及び特定鳥獣保護管理検討委員会の合同会議」が2日間にわたり開催されました。第1回目に引き続き新型コロナウイルス感染症対策のためリモートでの開催となりました。

科学委員会では九州地方環境事務所及び九州森林管理局より、令和3年度のモニタリング調査等の実施状況の報告と令和4年度の実施事項について提案があり、各委員からは効果的なモニタリング手法等について個々に具体的な指導・助言がなされました。中でも、乾燥化が進む「花之江河」や「小花之江河」の高層湿原における保全対策については、木道と流水の関係など、これまでの議論を踏まえ課題と対応策の検討をしていくことを確認しました。

前日に開催されたヤクシカ・ワーキンググループ及

び特定鳥獣保護管理検討委員会では、ヤクシカの生息状況について、北部地区において減少しているが、南部から西部地域は増加しているとの報告があり、今後もWG委員と連携をはかり森林生態系の管理目標及び植生モニタリング調査に取り組んでいくことを確認しました。



科学委員会・保全センター会場の様子

## 職員による小杉谷案内板の取替を実施 (2月17日)



(左)作業の様子 (右)設置された案内板

小杉谷小中学校跡登山道沿いの案内板の老朽化が進んでいたため、小杉谷閉山50周年記念行事の一環として今回デザインも新たにリニューアルしました。

取替作業は、本来であれば地元のパークボラン

ティア、屋久島山岳ガイド連盟、屋久島観光協会の方々の参加を予定していましたが、島内における新型コロナウイルスの状況から、当保全センター職員と屋久島森林管理署、環境省屋久島自然保護官事務所職員の計10名で行いました。小杉谷は標高が高いため非常に寒い中での作業となりましたが、無事に終えることができました。

新しい案内板には登山客にも足を止めて読んでいただけるように写真を多く使用し、小杉谷の歴史について簡単にまとめ、ベンチも新たに2基設置しました。

この登山ルートを利用する多くのみなさんが、小杉谷の歴史に触れることで屋久島と林業の結びつきについて考えるきっかけとなればと思います。

## ヤクシカ問題と狩猟について八幡小学校で森林教室を開催（1月26日）

当保全センターでは、八幡小学校の3、4年生を対象に森林教室を行いました。昨年8月に教職員を対象とした「屋久島森の塾」を実施した際に、「シカと森林のカード」という生物多様性について学べるカードゲームを各学校に配布したところ、八幡小学校の児童たちが興味を持ち、ヤクシカの被害に関してもっと深く知りたいという要望をいただいたため、今回の森林教室はヤクシカの問題や狩猟についての内容となりました。

前半は屋外で、植林したスギの被害を防ぐためのシカネットや、シカを捕獲するためのくくり罠の説明を行いました。シカネットは、学校の裏庭の一角に簡



（左）ワークショップでの発表（右）罠を作動させる

易的に設置し、児童たちに触ってもらったりぶつかって強度を確かめてもらったりしました。くくり罠の実習では、実際にくくり罠を仕掛け、隠したものを児童たちが目視で探し当てるゲームを行いました。児童たちは隠された罠を一生懸命探すなど、興味津々の様子でした。

後半は教室で、ヤクシカの問題について考察するワークショップを行いました。まず、ヤクシカの現状や問題点を写真や図を用いて解説した後、児童たちにはこの問題をどう解決したら良いか、そして自分たちに何が出来るのか考えてもらいました。数を減らすために罠を増やす、大人に対策を呼びかけるというような堅実な意見もあれば、捕まえたシカの活用法として日本全国の給食で出す、処分せず動物園のような施設で研究や教材の為に飼育するといったユニークなアイデアも挙がりました。

今回の森林教室はヤクシカや狩猟を中心にする初めての試みであったため、手探りの状態でしたが、無事に終わることが出来ました。この経験を活かし、子どもたちにもよりわかりやすく学びを深めてもらえるよう、内容を充実させていく方針です。

## ヤクタネゴヨウの保全について榕城小学校で森林教室を開催（2月12日）

当保全センターでは、ヤクタネゴヨウ保全の会からの職員派遣依頼を受け、西之表市立榕城小学校6年生(76名)を対象に、屋久島森林管理署と共同で森林教室を実施しました。当日は小学校近郊の公園で実施する予定でしたが、天候不良のため小学校内の体育館での開催となりました。

当保全センター及び屋久島森林管理署は前半の講義を担当し、まず植物の名前についてのクイズを行いました。難問もありましたが、児童たちは周りと相談しながら一生懸命考えてくれていました。その次に行ったのは葉の特徴についての説明で、講話以外にもバクチノキやヤブニッケイ等の樹木を持参し、児童たちに葉っぱを触ったり嗅いでもらったりしました。葉っぱでじゃんけんが出来るカクレミノは人気があり、多数の児童たちが葉っぱで遊びたがりました。前半の最後に、種子の仕組みと働きの解説を行いました。その際に、飛ぶ種子の模型(アルミラ)を各々で作って飛ばしてもらいました。皆で上

手に飛ばせるように何度も練習し、照明の上にまで飛ばした児童もいました。後半はヤクタネゴヨウ保全の会が講義を行い、絶滅危惧種であるヤクタネゴヨウの保全活動の取り組みや、松枯れの原因であるカミキリムシやマツノザイセンチュウに関する説明がありました。枯れた松を斧で割り、中にいるカミキリムシの幼虫を観察する時間もありました。

最後に、校長先生から感謝の言葉をいただき、森林教室のプログラムは終了しました。



（左）マツノマダラカミキリの幼虫の観察  
（右）植物の葉についての説明

# 屋久島里めぐり (第3回)

## —— 宮之浦集落・平内集落 ——

公益財団法人屋久島環境文化財団 事業課 主任 畠 幸江

### 宮之浦集落について

屋久島の北東部に位置する宮之浦集落は、この島の玄関口であり、世帯数が1400を超え、島内で最も人口の多い集落です。港は、鹿児島市との定期航路のフェリーや高速船だけでなく、クルーズ船も受け入れています。また、口永良部島と種子島を結ぶフェリーの中継地としての役割も果たしています。

宮之浦の中心地には「延喜式神名帳」延長5年(927)に記載されている南島唯一の式内社の益救神社と長享2年(1488)日増によって開山された久本寺があり、その歴史を見れば、屋久島が神道と仏教の影響を受けていることが如実に分かります。旧奉行所跡地の近くの裏道には、先のとがった石で作られ魔よけの効果がある「石敢當」というものがあります。

集落の真ん中を流れる宮之浦川には、昭和5年(1930)に完成した宮之浦川橋(通称古橋)が架かっており、これは大正10年(1921)、当

時の農商務省鹿児島大林区によって発表された「屋久島国有林経営の大綱」(いわゆる「屋久島憲法」)により熊本営林局によって建設されました。建設完了時には盛大に祝われたとされています。遠く離れた前岳から涼しい風が吹いてくるので、ちょっと涼しむのに最適な夏の夜の人気スポットになっています。



宮之浦大橋(古橋)と鉦折岳

### 平内集落について

屋久島南岸のちょうど中央に位置し、陽が燦々とあたる平内集落には約330世帯が暮らし、屋久島で5番目に大きな集落です。沿岸部に存在する海中温泉が有名であり、この温泉は1日2回干潮時に数時間だけ出現します。また、この集落で有名なのがポンカンの栽培です。1924年頃に初めて台湾から持ち込んだ苗木を黒葛原兼成氏がここ平内に栽培したのが始まりで、現在でも実をつけています。香り高いポンカンは、剥きやすさと果汁がたっぷりで柔らかい果肉、酸味が抑えられた程よい甘さで、島民に愛されています。

平内集落には八幡神社があり、武家の守護神であり第15代天皇でもある応神天皇を祀るこの神社は、一部の住民の間では「岩川八幡」と呼ばれています。その名称からこの神社がもと

もと岩川家の祖先を祀る場所だったことが偲ばれます。神社のしめ縄は、1年に2回、2月と8月に、近隣の農家から集められたかやで新調されます。8月のお盆には、棒を手にしてリズムカルに踊る棒踊りが奉納されます。



平内 ポンカン原木の碑



## 高層湿原植生状況モニタリング調査及び保全対策の検討③（令和元年度）

### 花之江河における試行的保全対策

#### ◆目的・調査地点及び方法

河床低下や流路の拡幅が生じている花之江河において緩やかに土砂等を堆積させて河床低下の進行を回避することを目的として、その効果的な方法を検証するために、昨年度検討した丸太木柵工の設置(図1の黒丸の3箇所)による試行的対策を実施した。

設置箇所は河床低下が進み、レキが表面に現れている流路(1流路)を対象とした。

#### ◆実施結果

①丸太木柵工の形状・・・木柵による側壁への影響(流路の拡幅)、水たたきによる流路の掘削等の影響が大きいことを考慮し、流路縦方向に杭(直径10cm～12cm程度)を3本、流路横方向に丸太(直径8cm～10cm程度)を数本の形状とした。材料は、島内国有林の間伐等で発生した丸太や枝条などを利用した。(図2)

②設置についての周知・・・登山者を案内するガイド等に本取組みを周知するため、設置前に屋久島森林生態系保全センターから屋久島観光協会に説明を行った。また一般登山者等への周知として、湿原保全を目的としてモニタリングや丸太木柵工設置をしている旨を説明したプレートを、花之江河及び小花之江河木道周辺に設置した。

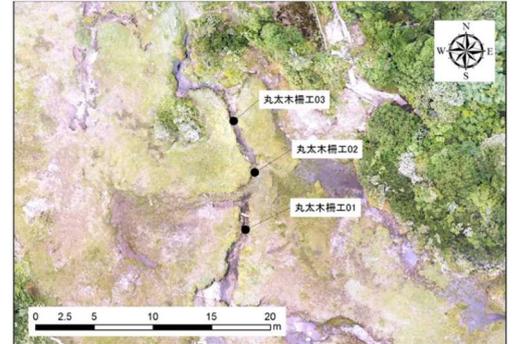


図1 試行的保全対策(丸太木柵工)の設置箇所(設置日:令和元年12月10日、晴れ)

丸太上端の高さは、湿原面と同じにし、木道からは目立たない設置としている。

側壁浸食を軽減するため、横方向丸太は3cm程度の隙間を設けた。

落ち葉や枝条等の堆積が進むよう、細い枝等を置いている。



図2 丸太木柵工の形状

## 木に逢う日々(第2回)「ガイドという仕事」

当保全センター GSS 野々山 富雄

ガイドという仕事は、むろん自然が好きです。ですが、それだけでは務まりません。人が好きでなければ。

毎日、日本中、世界中の様々な人達と会える、それが楽しいのです。

屋久島の山々は割と登山道が整備されているので、道案内という意味ではガイドが絶対必要ということはありません。むろん、あまりメジャーでないコースや、宮之浦岳など奥岳では行方不明者も多いので、ガイドを付けた方が安全です。

しかし、こと縄文杉コースに限れば、道はしっかりとしているし、登山者も多いので、まず迷うことはありません。

でも、事故やケガなど、万が一何かあった時、またいろいろな話を聞きたいとガイドを頼まれる方が大勢いらっやいます。

天気が良くて、お客様が元気に歩ける体力・体調であれば、誰がガイドをしてもそこそこ満足はしてもらえそうです。しかし、悪天候であったり、体力的に無理があり、途中でリタイアという事態に陥っても「ガイドさんを頼んで良かった」と、おっしゃってもらえたら、それがガイドとして1番の喜びです。

木に逢いながらも、人に逢う。それこそが、屋久島ガイドの醍醐味と言えるでしょう。



縄文杉コース